令和８年度　春日山原始林・奈良公園フィールドワーク
第６回　概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員　杉山　拓次

■第 6 回　朝の春日山原始林（春日山遊歩道北部）
実施日：2026 年 10 月 17 日（土）7:00～12:30
参加者：4 名（学生：2 名、外部教員：1 名、児童：1 名）
教職員：杉山、河野

概要：早朝から森へ訪れ、朝食をとります。その後、森を歩いて朝の清々しい空気を体感します。

スケジュール	
7:00	春日大社国宝殿前集合
7:05	自己紹介
7:10	水谷神社
7:30	春日山遊歩道を歩きながら解説
8:40	五感の体操
8:50	朝食・ルーペで観察
9:30	遊歩道を歩きながら解説
11:40	若草山三重目到着
12:00	若草山下山
12:30	若草山南ゲートにて終了

■概要報告

秋晴れの早朝、集合場所の春日大社国宝殿前にはほとんど人がおらず、到着するとシカがせんべいをねだって近づいてくるのみであった。今回は、奈良市の教員とそのお子さん（小 1)、学生 2 名の参加であった。早朝の清々しい空気のもと、春日山遊歩道へと向かう。

原始林に入ると朝日が差し込み、非常に美しい。この時期はジョロウグモの成熟期のためか、ちょうど光の差すところに大きな蜘蛛の巣がかけられており、それが光を反射してとても美しかった。そこかしこに蜘蛛の巣を見ることができた。参加学生 2 人とも虫への抵抗が少なく、この日は小さな生き物をいくつも見つけることができた。ザトウムシが捕食するシーンを観察できたり、色は美しいが毒のあるヒメツチハンミョウに出会えたりした。また、イチイガシやコジイなどのどんぐりが未成熟な状態で落ちており、コジイのほとんどにはムササビ等による食痕が見られた。

遊歩道が曲がる沢沿いで、五感の体操などをして体を森に馴染ませてから、朝食の時間とした。天気も良く清々しかったので、学生たちも気持ちよく過ごした。朝食後はそのままルーペを使って小さな生き物や苔などを観察し、森の中でゆったり過ごす時間をとった。

その後は、若草山山頂に向けてゆっくりと移動した。6 月に倒木した大きなモミの年輪に触れたり、コケやシダの仲間を観察したり、ウドカズラの蔓に触れたりしながら、時間をかけて森を味わう時間をとった。

若草山山頂への到着は 11 時 30 分と当初の想定よりも遅くなったが、晴天の風景を楽しむことができた。若草山の下山時も、トノサマバッタを捕まえようと試みるなど、自由に過ごす時間となった。ナンキンハゼが少しずつ色づき始めるとともに、山焼きのために残されたフェンスの中ではススキが美しく輝いていた。シカの影響が色濃く現れている現状への理解も深めながら、秋の散策を学び、楽しむことができた。

■写真

<table>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>イチイガシのどんぐりを解説</td><td>蜘蛛の巣が朝日に反射して美しい風景</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>ザトウムシの捕食シーン</td><td>ヒメツチハンミョウ</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>五感の体操</td><td>食後にルーペで観察</td></tr>
</table>

	
ジョロウグモの腹部は悪者顔をしている	樹齢 250 年ほどのモミの年輪に触れる
	
快晴の若草山山頂	ナンキンハゼとススキの風景